

あいづわかまつ 文化財だより

受け継がれ引き継いでいく文化財の今を情報発信

発行
会津若松市教育委員会
編集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第20号
平成25年4月1日
(2013)

八重が見つめた会津

NHK大河ドラマで脚光を浴びる新島八重。京都に住んだのちも会津に深い思いをいだいていました。その故郷への愛着がしのばれる八重所蔵の写真を紹介します。

京都市の同志社大学新島家保管庫には、八重ゆかりの品が多く残されています。そのなかに会津の名所や景勝地を写した22枚の写真がありました。若松城跡、東山温泉、柳津円蔵寺、飯盛山の白虎隊士の墓、御薬園、さざえ堂、十六橋、可月亭、磐梯山が写っています。

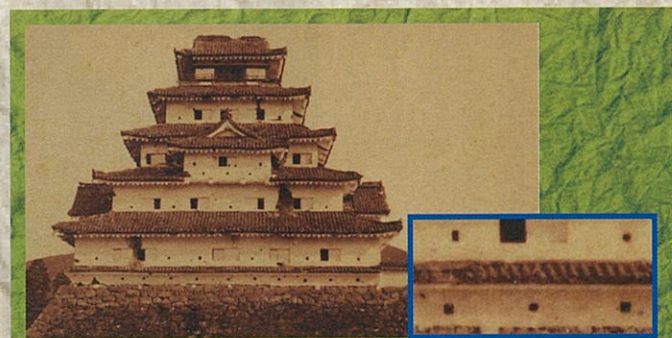
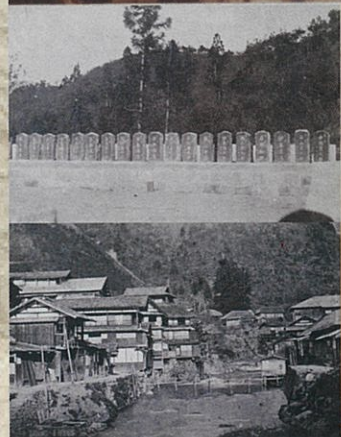
明治中頃に撮影されたものが多く、八重が会津を訪れた際に買い求めたものでしょう。

新島 八重 (1845~1932)

会津藩砲術師範役を務めた山本家に生まれました。鉄砲や大砲の術を習得しながら成長し、戊辰戦争の籠城戦へ男装して参加しました。降伏後は京都に移り住み、同志社大学を創設した新島襄と結婚。近年、その生き方が「ハンサムウーマン」と称され、注目されています。



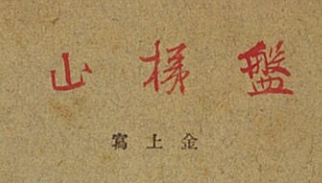
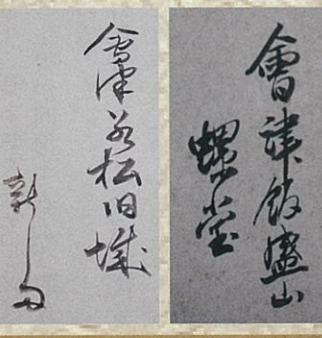
(上)御薬園
(中)飯盛山・白虎隊士の墓
(下右)磐梯山
(下左)東山温泉



八重所蔵の写真から明治期頃の会津を新たに知ることができました。例えば、上の若松城の写真です。天守閣に見える「銃眼」は、長方形をしていたと考えられていました。そのため、昭和40年に復元された天守閣は長方形となっています。しかし、今回の写真により円形と方形の銃眼が交互に配置されていたことがわかりました。

八重が残した写真は、はからずも現在の私たちに昔の会津の風景を伝える貴重な歴史資料となっているのです。

※銃眼…城への襲撃に備え、射撃や見張りをする壁穴



(上右)さざえ堂
(上中)さざえ堂の裏書き
(上左)鶴ヶ城の裏書き
(左)磐梯山裏書き

写真の裏には、八重自身によるものと思われる墨書が残されています。そこには、撮影されている名所の場所や「新島」の名が記され、大切に保管していたことがわかります。時折、写真を眺めながら、遠いふるさと「会津」を懐かしむ八重の姿が浮かんでくるようです。

御薬園は、会津藩主の庭園として江戸時代に造られました。庭園のなかで、まず目に入るのが「心字の池」です。この池を往時の姿に近づける修復を行っています。昭和期に貼られたコンクリートの裏には、石積みが見つかりました。本来、この場所は石積みの護岸だったのです。これを修復し、また一つ風情ある大名庭園の趣を取り戻しました。



文化財庭園を江戸時代さながらの伝統技術で修復

より良い
文化財の
すがた

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE

大窪山墓地

市史跡 旧会津藩大窪山共同墓地



門田町大字黒岩字大窪山



約4,000基の墓石がある大規模な史跡

会津藩初代保科正之により整備された、藩士とその家族のための墓地です。長い間手付かずの文化財でしたが、背丈まで伸びる草の刈取りを毎年続けることで、墓石が広く見通せるようになりました。

New

会津の歴史を
散歩するような
ホームページが
できました

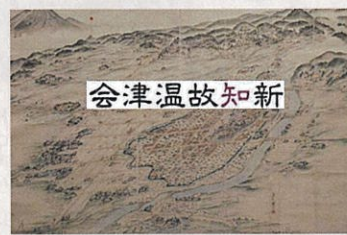
<http://www.tsurugajo.com/Onkochishin/index.html>

会津温故知新HP開設

歴史・文化資産活用事業

温故知新スタッフが集めた、身近な会津の歴史エピソードの数々を紹介するホームページです。昔の会津から新しい会津を発見してください。市観光公社と市のHPにリンクされています。

大河ドラマ館(城東町・旧会津図書館)の次の利用についての意見も募集しています。



会津温故知新

鶴ヶ城

国史跡 若松城跡

追手町



大きく崩れた椿坂東側の堀の石垣



江戸時代の石積技法により修復

東日本大震災により、崩れた若松城石垣の修復が完了しました。本丸の東側と椿坂の東側の堀に積まれた石垣です。写真の石垣は、震災前も昭和期のものでしたが、崩れた石垣を取り除くと、下から大きな自然石が出てきました。城が築かれた蒲生時代から、この場所に石垣があったことを示すものでした。

院内御廟

国史跡 会津藩主松平家墓所



会津藩二代から九代までの歴代藩主墓所である院内御廟。保科正之公が子の正頼公の埋葬地として明暦三年(1657)、南向きでよい清水が出るこの地を墓所として定めました。それから約350年経た今では、会津藩の歴史と土木技術に直に触れられる貴重な史跡となっています。市では、歴史散策会を通し、身近にある本物の歴史を紹介しています。平成24年はスタンプラリーをしながら楽しく散策しました。



藩主の業績が書かれた碑石の大きさにびっくり

文化財に
集う



試掘調査 田中遺跡 河東町槻ノ木

農地整備が計画された田中遺跡の試掘調査



ポイントを決め、実際に掘り込み、地中の遺跡の状況を確認

試掘調査とは、工事予定地内などで遺跡の有無、範囲、深さ、どのような性格の遺跡か、ということを確認するための調査のことです。田中遺跡は、土器片を拾うことができたため、遺跡の可能性がありました。

すると、竪穴住居や建物の柱跡、溝跡などを予想よりも広く確認し、この地中にくらしの跡が残っていることがわかりました。時代は弥生時代から室町時代までのいくつかの時期です。この結果を基に遺跡の保護について検討します。

郡山遺跡 河東町郡山

郡衙(郡の役所)の役人が住んでいた居宅跡が明らかに



役人のくらしに必要な道具や、広い文化のつながりを感じさせる器が出土

堀で囲まれた中に、居住施設と考えられる建物と倉庫が並んで建ち、硯や東海地方で作られた土器も出土しました。建物は、9世紀末から10世紀中頃まで、建替えながら続いていたようです。10世紀代には郡衙の機能が失われるので、終わり頃の居宅跡といえます。

ただし、それ以前の平安時代初頭や奈良時代の土器も出土しています。古い時期の建物も存在したと考えられますが、後に削られてしまったか、別の場所に存在するのか注目されます。

今年の発掘調査

発掘現場から
文化力
POWER OF CULTURE

若松城跡郭内武家屋敷跡 米代二丁目



新島八重生家の山本家があった米代四之丁に面した武家屋敷の一角を調査



発掘された道具には焼けたものが多く、火災の怖さを今に伝える

会津藩士生田雄吾郎、遠山熊之助郎があったとされる武家屋敷跡を調査しました。当時の武士の日常生活が想像できる、井戸や食器下駄などが見つかりました。なかには、焼けた痕跡が残っているものがあり、屋敷が火災にあったことがわかります。

また、遺跡の土層を観察すると、戊辰戦争で焼失した辺り一帯を明治時代に整地し、それからは田畑として利用した土地の流れも確認できました。

長谷地A遺跡 河東町東長原



縄文時代と平安時代に暮らしていた人びとの生活のあと



土器のかけらが集中して出土。土器を焼き固める途中で、割れて飛び散ったと考えられる

農地整備の影響がある遺跡の記録を、将来に残すための調査を行いました。

焼けた土や溝、地面を掘り込んだ跡は、主に平安時代の人々が残したものです。土器の出土した状況から、土器を製作する場所として使われた可能性があります。また、縄文時代では、新潟方面の文化に影響を受けている土器が出土しました。

大河ドラマ「八重の桜」オープニングに映し出される印象的な桜。この桜が石部桜です。
中世に会津を治めた葦名氏の家臣に「石部治部大輔」という人がいました。その屋敷の庭にあったといわれる桜で、樹齢約600年を数えるエドヒガンです。
江戸時代には、会津藩主が花見に訪れた記録が残っており、名桜として知られてきました。さらに五代藩主の頃には、周りに柵を設けて、大切に守られてきた様子が見えます。

樹齢600年の桜を今年もながめるよるこび



文化財としての桜

文化財として指定され、守られている桜と、歴史につながる地に植えられた桜を紹介します



いち早く花が咲くといわれ会津に春の訪れを告げる



江戸時代の石部桜(会津図書館蔵)

時代を経て愛されてきた桜。この桜がこれからは長生きしていただくには、成長の源である根元を踏み固めないことが必要です。そこで、新しい木道や柵を設けて、桜の成長をさまたげることなく鑑賞できるようにしました。きれいな桜が咲く頃には、新しい説明板もできています。これからも美しい桜が咲き続けるよう、見守りたいものです。



春を待つ石部桜



樹高約13メートル、枝張り約17メートル、樹齢約300年のエドヒガン 優雅な枝張りを見せている

昔、いつき太夫という美しい芸妓がいました。この太夫に想いを寄せていた天狗又兵衛は、花見の折に太夫を殺害してしまいました。町の人びとがこれを哀れみ、飯盛山の麓に太夫を埋め、供養のために桜を植え、以来、太夫桜と呼ばれるようになりました。その後、弟の南秀という法師が仇討ちを果たしました。この伝承が残る桜の二代目です。飯盛山の斜面に立っています。

語り継がれる桜



急な地形に根を張ってまっすぐに立ち上がり、花を開く様子は圧倒的な美しさとなります。この桜の立つ急斜面では、根元の土が流出したり、周りの樹木で日光が遮られたりするために、だんだん桜に衰えが見られるようになり、そこで、枝を支える柱を立て、周りの環境を整えて、桜の生育が回復するよう取り組みました。

石部桜とともに会津二代老樹と称されている太夫桜。言い伝えとともに守られている桜です。

3
発掘調査に従事する臨時職員募集

平成25年度内に市内で行われる発掘調査に従事する臨時職員を募集しています。勤務条件などの詳しいお問合せ先は 文化課 電話39-1305

2
遺跡内で工事をする場合の届出

工事に着手する前に文化財保護法に基づく届出が必要となります。遺跡の有無は、文化課に問合せください。届出様式はホームページからもダウンロードできます。

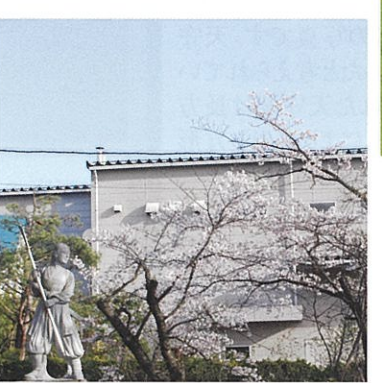
1
文化財の情報満載市ホームページをご覧ください

旬の文化財情報やよくある質問、出前講座の案内などが会津若松市ホームページの中の「会津の歴史と文化財」文化財Informationからご覧いただけます。

お知らせ

ホームページアドレス
http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/Docs/2012/110900109/

「武士の猛き心にくらぶれば数にも入らぬわが身ながら」中野竹子が女性たちと一緒に戊辰戦争で戦った際、薙刀に付けたといわれる句です。この句とともに命を落とした奮戦の地には、石像や句碑を彩る桜が開きます。この地で顕彰祭や清掃活動が続いているのが、中野竹子顕彰会の皆さんです。柵の修理や樹木の整備を行い、戊辰戦争の一場面がしのばれるよう活動を続けています。



奮戦の地を癒す桜たち

